

## Dialogue 31 Saying someone is obliged to do something

-したほうがいいのかきく-

### ダイアログの和訳と解説

口語訳

Roles: Heinrich=H, Kei=K

Heinrich is going to go over to a Japanese friend's house for dinner.

H: ① My friend, Hiro, invited me over for dinner, ② but I'm not sure about Japanese manners.

K: ③ Like what?

H: ④ For instance, ⑤ should I bring something?

K: ⑥ Hmm... ⑦ you should probably bring something small – like some sweets.

H: ⑧ What do I need to say when I meet his parents?

K: ⑨ When you go into the house, ⑩ you have to say “*ojamashimasu*”, ⑪ and when you meet his parents, ⑫ you have to say “*hajimemashite*”.

H: ⑬ What about table manners? ⑭ Do I have to use chopsticks?

K: ⑮ You should try to use them.

H: ⑯ OK. ⑰ I'll try. ⑱ I want to be polite.

K: ⑲ Well, if you really want to be polite, ⑳ you need to say “*itadakimasu*” before you eat.

ハインリッヒは日本人の友達の家で夕食を食べに行きます。

ハ：① 友達のヒロが夕食に招待してくれたんだけど、② 日本のマナーについてわからないんだ。

ケ：③ たとえばどんなこと？

ハ：④ たとえば、⑤ 何か持っていくほうがいいもの？

ケ：⑥ えーとね、⑦ なんかにちょっとしたもの、たとえばお菓子とかを持っていったらいいと思うよ。

ハ：⑧ 彼のご両親に会ったらなんて言うの？

ケ：⑨ 家に入るときには⑩ 「おじゃまします」って言わないといけないのと、⑪ 彼のご両親に会ったら⑫ 「はじめまして」って言わないと。

ハ：⑬ テーブルマナーとかはどうなの？ ⑭ お箸を使わないとだめかなあ。

ケ：⑮ 使おうとしたほうがいいよ。

ハ：⑯ わかった。⑰ やってみる。⑱ 礼儀正しくしたいもんね。

ケ：⑲ まあね、もしほんとうに礼儀正しくしたいなら、⑳ 食べる前に「いただきます」を言わなくっちゃ。

### Target Expressions

—したほうがいいのかきく—



ダイアログに出てくる  
“should”、“need to”、“have to”  
の3種類をうまく使い分けて  
たずねてみましょう。

☆ 「～すべき」「～した方がよい」という表現は、程度や必要性の有無によって使う言葉が変わります。

< should >

例：⑤ should I bring something?

⑦ you should probably bring something small – like some sweets.

⑮ You should try to use them.

→ “should”が「～すべき」という意味で使われ、話し手は「それは行うべきことだ」とかなり強く確信しています。



## Kei's Advice

～なぜこう訳すの？

## 逐語訳

②”manners”は複数形（～s）の状態で「マナー・行儀・作法・身だしなみ・風習・習慣・風俗」の意味を表します。”manner”だけだと「方法・やり方」といった意味になり、日本語でいう「マナー」の意味はありません。

②”sure about～”で”about”以下の事柄について”sure”（確信）できるほどの知識が無い、ということなので、「～についてわからない」という訳になりました。

③”Like what?” は相手の言葉を受けて「たとえばどんなこと？」とたずねる表現です。（For example? よりくだけた言い方。）

ハインリックの言いたかったことをまとめると、**I'm not sure about Japanese manners like what I have to bring, say and use.** となりますが、彼にはマナーについてわからないことがたくさんあったため、上記のように具体的には言えず、”like what”「～のようなこと」以下は言われていません。主はその”like what”の部分だけを取り出して会話を続けているのです。

ハインリックは日本人の友達の家に夕食を食べに行きます。

ハ：①僕の友達の、浩（ヒロ）が、僕を夕食に招待してくれました、②しかし僕は日本の作法について確信がありません。

ケ：③何のようなことですか？

ハ：④たとえば、⑤僕は何か持っていくべきですか？

ケ：⑥ふーむ、⑦君はたぶん何か小さなもの、いくつかのお菓子を持っていくべきです。

ハ：⑧彼のご両親に会った時に僕は何と申す必要がありますか？

ケ：⑨君が家の中に入る時に⑩君は「おじゃまします」と言わなければなりません、⑪そして君が彼のご両親に会った時⑫君は「はじめまして」と言わなければなりません。

ハ：⑬テーブルマナーについてはどうですか？

⑭僕は箸を使わなければなりませんか？

ケ：⑮君はそれらを使おうとするべきです。

ハ：⑯わかりました。⑰僕はやってみます。

⑱僕は礼儀正しくありたいのです。

ケ：⑲ええと、もし君がほんとうに礼儀正しくありたいのなら、⑳君が食べる前に「いただきます」を言う必要があります。

### <need to>

例：⑧What do I need to say when I meet his parents?

⑳you need to say “itadakimasu” before you eat.

→”need to”は「～する必要がある」という意味で、～以下の事柄を行う必要性の有無、又は、～以下で言ったことをどのように行う必要があるか、をたずねたり示したりしています。

⑧では何か言う必要性は前提としてあり、何を言う必要があるかをたずねています。

⑩は⑧に答えています。代わりに”Have to”を使って言うこともできます。

### <have to>

例：⑩ you have to say “ojamashimasu”

⑫you have to say “hajimemashite”.

⑭Do I have to use chopsticks?

→”have to”は「～しなければならない」という意味で、～以下が強制・義務であるかどうかをたずねたり示したりしています。

⑭では箸を使うべき義務が自分にあるかどうかをたずねています。

代わりに“Need to”を使って言うこともできます。